

男の子と女の子の違いを形作るもの～香港の場合～

アメリア・ロー（香港）

教育は、男女の違いによる固定観念が顕著に表れる興味深い分野です。そこで疑問となるのが、子どもをどのように扱うのか、また何を教えるかによって、その子どもの人生が形成されることです。

男の子と女の子は身体的、心理的に明らかな違いがあります。しかし、その相違の多くは先天的なものよりもその子が社会生活に順応する過程で自然と身に付けたものの方が多くを占めています。

中国では、小さい頃から男の子と女の子に対する親の扱い方が異なることがよくあります。男の子は男らしいおもちゃを与えられ、銃や車のおもちゃで遊ぶように言われたりします。一方、女の子は人形やままごと道具を与えられる傾向にあります。これは、男性と女性が世の中で果たすべきだと考えられている役割に合致しています。ハロウィンで女の子がスーパーヒーローのコスチュームを着たいと言うと、しかめ面をした親から「お姫様や魔女にしておきなさい」と言われることがよくあります。これに対して男の子は、お人形遊びをしたり、爪にマニキュアを塗ったり、ある程度の年齢になると人前で涙を見せたりすることを許されない、ということがよくあります。

外見に関しては、男の子はピンクではなくブルーを好み、反対に女の子はブルーではなくピンクを好むものだと思われています。また、女の子は成長するに従い化粧をして当然だと思われており、また女性の価値が外見でほぼ決められるマスメディアの悪影響で、多くの女の子が体重を気にし過ぎています。香港では小学生や中高生といった若い女の子たちが影響を受け、自分のことを「太っている」と言って朝食や昼食を抜いたりします。香港の映画製作者ニコラ・ファンは、「私は、どうすれば女の子らしくなれるか、ということは何度も何度も周りから言われました」と言っています。多くの人が同じ思いをしているのではないのでしょうか。

セカンダリースクールに通う間、女子は50年近く前から教科としてカリキュラムに組み込まれている家庭科を履修し、裁縫、料理、皿洗いなどの技術を習います。そもそも教育というのは、若者が将来に備えるために受けるものです。では、女子しか料理を習わないということは、女子は将来家事の負担を一手に引き受けることを期待されているということなのでしょうか。幸いにも、香港平等機会委員会が1999年に調査を実施した結果、近年では家庭科は女子の科目としてだけでなく、男女共学の学校では男子も選択科目と

して履修することができるようになってきました。この動きは、男女の違いによる固定観念を変え、より良い方向へと向かっていることを示すもので、喜ばしいことです。

しかしここで問題となるのが、このような固定観念の根底にあるものは、本当は何なのか、そしてそれは実際に真の姿を映し出しているのか、ということです。例えば、男子は女子よりも科学に強いとよく言われます。しかし、香港の学校 140 校に通う 2,437 名の生徒を対象にした調査¹によると、男女ともに科学の得点数はほぼ同じでした。男子と女子が同様のカリキュラムで教育を受けた場合、どちらも科学で良い成績を取めることができるのは明らかです。しかし残念なことに、香港の社会では今日でも「女性は男性に比べ、数学が得意ではない」と信じられています。このことが原因で、親は娘に対してあまり期待せず、娘も「自分は数学が苦手だ」と思い込み、結果として数学や科学を学ぶ女子が少なくなっているのかもしれない。

かつて、マーガレット・サッチャー元首相はこう言いました。「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる」

今こそ、男の子と女の子がいかに振る舞うべきかについて、私たちが抱いている既存の考えや期待を見直すべきではないでしょうか。なぜなら、そのような考えや期待がベースとなって男の子や女の子の扱い方に関する固定観念が出来上がっているからです。個々人の生活を形作るのは、家庭、学校、社会における日常のやり取りです。私たちのジェンダーに対する概念を変えることで、男の子や女の子が「自分はどうかあるべきか」ではなく「自分はどうかありたいか」を実現できるようにしていこうではありませんか！



ハロウィンにプリンセスに仮装する女の子

¹ http://www.fed.cuhk.edu.hk/~hkpisa/output/files/Yip_Chui_Ho_2004_Gender_Sci.pdf